

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

平成 31 年 4 月 1 日改正
(平成 31 年 4 月 1 日適用)

①第三者評価機関名

NPO 法人ナルク岐阜福祉調査センター

②施設・事業所情報

名称：岐阜市立三輪南保育所	種別：保育所
代表者氏名：二村 麻衣子	定員（利用人数）： 105（55）名
所在地：岐阜市石原 3 丁目 220 番地 1	
TEL・FAX：058-229-1253	
メール：ho-mi-minami@city.gifu.gifu.jp	
ホームページ： https://www.city.gifu.lg.jp/info/shisetu/1010601/1010604/1010618.html	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 昭和 43 年 4 月 1 日	
経営法人・設置主体（法人名等）：岐阜市	
総職員数	16 名
	正規職員： 8 名 任用職員： 5 名
専門職員	所長 1 名 保育士 2 名
	副所長 1 名 調理員 3 名
	保育士 6 名 パート職員： 3 名
	保育士 3 名
施設・設備 の概要	（保育室） 5 室
	職員室 1 調理室 1 更衣室（ロッカー） 1 手洗い所 7 か所 屋外 プール、総合遊具、砂場、 ジャングルジム、太鼓橋 屋内 ピアノ、跳び箱、マット 平均台 、鉄棒

③理念・基本方針（※転載）

理念

- ・子どもの最善の利益を保障します。
- ・子どもにとって最もふさわしい生活の場を保障します。
- ・家庭援助や地域における支援を積極的に進めます。

基本方針

- 生涯にわたる生きる力の育成。
- 自分のことを自分でする力

○人とかかわる力

○身近な物や出来事とかかわる力

安心安全な環境の中で、保育士との信頼関係を基盤とし、子どもたちが主体的に様々な遊びや経験をすることで、生きる力の基礎を育めるよう、一人一人を大切にした保育を実践します。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

●立地・環境

・本地域は岐阜市の北東部に位置する。東から南には長良川、北は関市と山県市に接している。西と北は丘陵樹林地に囲まれ、平坦部は田園風景が広がる自然環境の豊かな地域である。

・設立は昭和43年4月、木造瓦葺平屋造りの園舎は50年を経過し、さすがに古さは否めないが、毎年計画的に修理・修繕を重ね子どもたちの過ごしやすい環境づくりに注力されている。令和8、9年度にかけて園舎の一部改修の計画もある。保育室はどの部屋も良く整理整頓され、子どもたちが過ごしやすいよう、活動しやすいよう工夫されていた。

・園庭は、園舎の南側に大きく広がり、児童一人当たりの園庭面積は15㎡（一般的には10㎡程度）で、サッカー遊びをしたり、風揚げに走り回ることもでき、異年齢児が同時に園庭に出て、年長組と年少組と一緒に遊ぶ、異年齢交流も盛んに取り入れられているようであった。

・園舎の前に、544㎡の畠と400㎡の水田がある。畠には「三輪南マイナピ・ランド」と表示された看板が立てられていた。これはJAバンクの食農教育応援事業として、三輪南小学校と三輪南保育所へ、農作業の体験学習の場として提供されたものである。ここで保育所児童はさつまいもの定植、収穫を体験し、給食に取り入れたり、家庭へ持ち帰ったりしている。

・園庭の片隅にも畑があり、そこにはピーマン、ナスが植えられていた。季節に合わせ、子ども達は、玉ねぎ、えんどう豆、おくら、キュウリなども栽培している。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和7年5月20日（契約日） ～ 令和7年10月25日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	2回（令和元年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

●玄関先、ロビーの展示

・広い玄関、廊下、ロビー、保育室入口壁面には、工夫を凝らした数多くの展示が目を楽しめる。

・特に「保育士が、何を願って保育をしているか」を保護者へ伝えるため、『保育所保育指針が定める乳幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を子どもたちがどのような

に体験し、身につけていくかについて、根っこの部分に10の項目を描き、根っこから養分を吸収して小学生、中学生、高校生、大学生、そして社会人を大樹で描いている。大樹の下には、「今日の子どもの姿」、「クラスのように」の2通り（A4サイズ）のドキュメンテーションで子どもたちの活動している様子を掲示している。

・ドキュメンテーションは、すべて各クラスの担任の保育士の手作りで、大きなスナップ写真と、写真のコメント書き込んだもので見ごたえがあり、保護者の評判も良く、降所時にほとんどの保護者が閲覧しているようであった。

●給食タイム

・年長児各クラス共、担任の保育士を囲んでテーブルが並べられ、その日の献立の栄養の話など、保育士のお話を聞きながら食事をするアットホームな給食タイムであった。

●地域との連携・交流

・JA ぎふ、民生委員の協力を得て栽培規模が大きく、さつまいもの野菜栽培体験をしている。

・地元中学生116人が29人ずつ4日間にわたって、保育所を訪れ、職業紹介、職業体験をする機会を設けている。

●ボランティアの受け入れ

・年長組保護者の支援もあり、年7回FC岐阜や、岐阜県サッカー協会の指導を受けている。

●事故防止への取組み

・ヒヤリハット・事故防止マニュアルはよく整備されている。

・ヒヤリハット集計は「年齢別」、「時間別（午前・午後）」、場所別（保育室・園庭等）、「活動別（自由遊び・一斉活動など）」、「状況（転倒・転落等）」の5項目について月ごとの報告件数が記録され、職員会議などで、反省、改善策が協議されている。

●福祉サービスの質の向上に向けた取組み（自己評価）

・自己評価が計画的に実施されている。

・第1回は7月「子どもとのかかわり」、第2回は9月「保育環境」、第3回は11月「保護者とのかかわり」、第4回は1月に「年齢別、担当別項目」について、職員会議で行われる。

・保育士が事前に自己評価し、気づいた事項を記録し担当者に提出し、それを基に職員会議で話し合いが行われている。

●保護者の満足度

・今回の調査に関し、当調査センターは7月末在籍の保護者全員（51人）に38項目の満足度のアンケート調査を行った。建物・設備については意見、要望が散見されたが、子どもたちの保育所での生活、遊び、保育所と保護者との連携、職員の対応等すべての項目及び総合評価で「満足」「まあ満足」が100%であった。

・また、5歳児の男女4人の子どもにインタビューを行った。遊びのこと、歯磨きのこと、給食のこと、先生のこと等いろいろな質問に、みんな元気に答えてくれた。歯磨きについては全部の子どもが家でも朝夕しっかりできていた。大人になったら、何になりたいか尋ねたところ、男の子1人は返事がなかったが、3人は、「ケーキ屋さん」、「アイスクリーム屋さん」、「アイドル」であった。子どもたちが保育所の生活を心から楽しんでいることを覗うことができた。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

保育所保育指針を基に、子どもや保護者、保育所職員を大切に、家庭的で温かな保育所づくりを心がけてきました。第三者評価受審にあたり、マニュアルや保育内容、環境等見直すことができました。ドキュメンテーション作成を通じた保育の振り返りは、職員の語り合い等を通じて課題の明確化、改善を行い、専門性の向上及び保育の質の向上につながったと思います。

今後も一人一人の子どもや保護者に寄り添い、健やかな育ちを保障し、家庭的な雰囲気大切にしながら、保育の充実、質の向上を図って参ります。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。